

こどもが夢中になるアート

香月欣浩*

Art which Kids are Crazy about

Yoshihiro Katsuki

作りたいから作る。描きたいから描く。そんな想いから始まったであろう美術の目的が「うまく作るため」「うまく描くため」にいつの間にか、すり替えられている様に感じる。さらに悪いことに、学校の評価を良くするため、指導者の評価向上のために、こども達の作品の完成度をあげることに必死の教師がいることは残念なことである。教師の思い通りの作品に変えられ、こども達は自分の作品や制作過程に納得していない。それでも保護者が「うちの子がこんなにすごい作品を作れた」と喜ぶので事態は悪化する。いい作品を作らせることが目的となってしまう、一番大切な気持ち「自分の作りたい様に作る」が忘れ去られてしまっている。そして学校間の「いい作品を作る」競争が始まる。そんな事態を回避するためにはどうすればいいのか探っていきたいと思う。

Key words: こどもの造形、夢中になる、あそびと学び、アート、環境

<はじめに>

造形あそびって一体なんだろう？

アート（美術）ってなんのためにするのだろう？

この世になくてはならないのだろうか？

スピードと効率ばかり求められている現代。

改めてアート（美術）の必要性が問われていると思われる。

幼稚園（※1）で行なっているアートクラブの活動を基にこどもの美術のあるべき姿を様々な角度から考察していくことにする。

<こどもと遊び>

遊ぶ＝命令・強制や義務からではなくて自分のしたいと思う事をして、時間を過ごすこと。（※2）

「この中へ入るな！」という看板を見ると入りたくなり、「のぞかないで！」と言われれば、のぞいてみたくなる。逆に「こうしなさい！」と言われるとしたくなくなる。それが人間だ。その気持ちは大人よりもこどもの方が強い様に思われる。遊びだってそうだ。大人が決めごとを設定したり、介入しすぎたりするとつまらない。こどもは柔軟性

があるのでそれでも文句は言わないが、本当はもっと自分たちで考えられるし、決めて実行できる。なのに大人が勝手にこどもの限界を決めてしまっている気がしてならない。そもそも大人の小さな枠に、無限の可能性を秘めたこどもをはめ込もうとするのが間違いだ。遊びは自分で何もかもを決めていけるからこそおもしろい。

<こどもとアート>

アートの意味は芸術や美術だが、もっと分かりやすく言うと「アート＝自己満足」なんだろうと思う。美しいと思うものは人それぞれだし、誰かが醜いと思うものでも見る人によっては美しく映っていることもある。

みんなに理解される事はなくとも好きだから作る。したいからする。誰になんと言われようと、自分が美しいとか楽しいとか思えて満足していればそれがアートなのだ。自己満足のどこがいけないのだろうか？まず自分を満足させずに誰を満足させるのだろうか？自分も満足させられない人に他人を満足させる事なんて無理なのだ。大人になんと言われようと、こどもは自由に自己満足しながら、絵を描いたりものを作ればいい。それがアートな

* 四條畷学園短期大学 保育学科

のだから。

<自由な世界>

何を使ってどうやって作るのか？全てを自分で決めるのが究極のアートと言える。アートでは創造する上で自由という旅にでる。町内の散歩より日本旅行の方がスケールは大きいですが、旅行には世界旅行もある。もっと上を見れば宇宙旅行だってあるのだ。自分の人生を日本旅行で終わるのか、それとも宇宙旅行にまで規模を大きくしていくのか？それは個人の生き方に委ねられている。その土台ともいえる幼少期にアートを通して創造という旅行のしかたを体得していく必要がある。

<自由の注意点>

自由が素晴らしいからといって、幼少期からいきなり何でもかんでも自由にさせればいいものではない。少しずつ知識や技術を身につけていながら、自由の領域を広げていく必要がある。そうしないと、何もできない赤ちゃんに「自由にしてもいいよ」と言ってほったらかしにしているのと同じことになる。これは自由ではなく拷問だ。自由という言葉は響きがいい。人はこれを多用しようとするから危険だ。身の丈にあった「自由」を与えないとそれは身動きの取れない「不自由」になる。だから自由は慎重に扱わねばならない。

<材料>

材料はできるなら買わない方がいい。身のまわりにあるものを材料に、工夫という道具を使って何かを作り上げていく。これがアートだからだ。材料を買い揃え、目標とする完成品に向かって作っていくのでは、ひとりひとりの創造性が入り込む余地は極めて少ない。これでは「アート」でなく「作業」になってしまう。なにを使って作ろうか？考えるところからアートは始まっている。

<ゴミから考える>

捨ててあるものの中に宝物は眠っている。「捨てる神あれば、拾う神あり」とはよく言ったもので捨てる人にとっては困るくらい邪魔なものがゴミ。しかし人が変われば、ゴミではなく宝物に見えてくるのだから不思議だ。美術的視点から

見ればゴミはゴミでなく、喉から手が出るほどのありがたい素材なのである。また捨てる前に「何かに使えないかな？」と考える姿勢は、「ものを大切に使う」という事をこども達に考えさせる上で、とても大切なことだと考える。

アートクラブで使用した材料のほとんどが、もういらなくなったものや扱いにくくなって譲り受けたものだった。学祭で使った装飾品、授業で出てくる色画用紙などの切れ端、カチカチに乾燥してしまった土粘土など。

もともと捨てられる運命だった材料でこども達が遊んで、嬉しそうにものづくりに励んでいる。捨てられずに済んだ材料も幸せ、こども達も幸せ。それを見守る親御さんと指導する私も幸せ。

みんなが嬉しい場所にエネルギーは集結し創造の雰囲気は生まれてくる。

<量>

色々あるからといって、あまり与えすぎない方がいい。つまり「足りないくらいが調度いい」ということだ。飽食の現代社会を見れば分かる通り、満たされると私たちは何も考えなくなり、何もなくなる。材料でも有り余るほど貰えるより、「ちょっと少ないなあ」と不満が残るくらいの方がいい。欲すればその足りない部分をどうにか穴埋めしていこうとするものだ。これが工夫である。足りないものを別の材料や知恵で補うのである。

<道具>

便利という言葉は、不便に感じていた人がなにかの改善によって初めて使う言葉である。歩くしか移動手段のなかった時代の人が飛行機や自動車の発明によって便利と感じるわけで、生まれた時からそれらのある現代人にとっては当たり前であって、そこには何も感じないはずである。逆に自動車が故障して乗れなくなった時に不便を感じ、日頃の便利さに感謝することがあるかもしれない。

人間が初めて手に入れた道具は「手」だった。細かな作業から力仕事までこなし、何でもこなす高性能な素晴らしい道具だ。こども達には、はさみやホッチキスなんかよりも先に、この素晴らしい手という道具を存分に使い、味わい、楽しみ、鍛えていってもらいたい。はさむ、握る、つぶす、裂く、引っ掻く、折る、たたく、なでる、まぜる、

よる・・・ものと自分と1対1で向き合うこと。これが大切だ。手で触れ、直接かかわり合うことで相手を知ることができる。

材料のところでも触れたが、道具も与えすぎないことだ。

紙を半分にしたい時、いきなりはさみを与える必要はない。私たちには手があるんだから。もっとまっすぐに、早く、鋭く切りたいという欲求が出た時に教えてあげればよいのである。はさみを使わずに、爪で折り目を強くいれてから切る方法だ。何でも先走って、教えようとする大人の自己満足がこどもの成長の邪魔をする。現代は道具がありすぎて、どれを使ったらよいのか迷ってしまう傾向にある。

接着剤ひとつを取ってみても、フェキのり、水のり、スティックのり、木工用ボンド、瞬間接着剤、セロハンテープ、ガムテープなど訳が分からなくなるのは当然だ。まずはフェキのりで指先の使い方と、のりの最適用量や張り合わせ方、乾燥後の効果などを知る。そして頃合いを見て水のりやスティックのりも使用し、性能の違いを体験していく。紙と紙の接着は、のり。ビニールとビニールは、セロハンテープが適している。ビニール同士は、のりでもくっつく。ただしビニール同士の場合、セロハンテープの方が接着力が強いし、乾燥時間がいらぬぶん適している。そういったことを経験を通して学んでいくことが、とても大切だ。

<環境>

環境は大切だ。

まずは表現の場の環境

「何か絵を描きましょう」と先生が言った場合これが室内であるのか、屋外であるのかで描かれる絵の題材は全く違って来る。

森の中、川のそば、海、家の中、お風呂場、台所など。森で描けば、虫や鳥、落ちている葉やドングリ、植物などの自然が描かれ、台所なら料理をするおうちの人、鍋や食器、テーブルや照明、ガスコンロも描かれることになるだろう。

目に見えるもの、聞こえるもの、触れるものなどから影響を受けるのは当たり前で、自分がどこにいるのかは重要だ。自主性が出てくれば、自分でどこに行くのか？が重要になってくるのだが、

そこまで自由度のない幼少期においては大人の用意する環境（場所）が大きな影響力を持つことになる。

だから「なんとなく」とか「面倒くさいから教室で」といういかげんな理由で場所を設定することは絶対に避けねばならない。

また、狭いか広いか？描きやすい姿勢がとれるかどうか？という場所の環境も重要だ。これによって、小さくまとまった作品になったり、大胆で伸びやかな作品になったりする。描くのに適した姿勢や場所づくりを指導することも大切な点である。

次に人的環境

集中の続かない子には根気よく制作をすることも達のそばで絵を描かせるようにする。すると、いつもよりも長く描き続けるようになる。これはまわりからの刺激による変化である。緊張感のある雰囲気の中で、集中力のある子を先生が褒めると、それを聞いている子は自然とそうしようと思うものである。

よいお手本の子がまわりにいることは大変影響力がある。

この逆も言えるので気をつけなければならない。よい影響力が及ぶ様に人的環境を考え、こどもを配置させることが重要である。

さらに時間的環境。

先生が作品展を気にして完成させることに重点を置きたくなるのはよく分かるが、こどもの将来のためには、自分で考えて、決定・実行していく事の方が重要なのだ。ものづくりは本来ゆったりとした時間的環境下であって、自由な発想を許容する雰囲気の中で「したいからする」のであって、作品展のためにしているのではない事を忘れてはならない。

<言葉かけ>

こどもに対する言葉かけは大変重要だ。こどもたちにどう育てたいのか？それによって、かける言葉も違って来る。料理で例えると先生はコックさんで言葉かけは味付けだ。甘くしようか辛くしようか？そしてどれくらいの塩味にしようか？それはコックの腕次第。まさにいい塩梅の味付けが料理の味を決める。先生のいい言葉かけによ

て、こどもはいい方向へ育っていくのだ。ただ気をつけねばならないのは大人。

特に教師は教えることが仕事であるから言わなくてもいいことまで言って、こどものためになったと自己満足することがある。こどもにとってはいい迷惑だ。

こどもにできることは、こどもにさせるべきである。経験できる機会をこどもから奪う大人は罪人だ。大切なことは、こども自らに考えさせること。制作に行き詰まって困っているこどもがいたら「こうしなさい。」と言うのではなくて「どうしたいの?」と聞く。なんとなくでも本人の狙いが見えたら「こういう材料があるよ。こんな方法もあるんじゃない?他にもきっとあるよ。やってみよう~」と励ますことだ。指示するのではなく、自分の考えで制作を進めていく事に自信を持たせることだが大切だ。

教育の鍵は、こども達にいかにか自信を持たせるか。これに尽きる。

褒めたり励ましたり、時には注意をして軌道修正をすることも必要となる。

<準備と片付け>

いつまでも「こどもだからね」と大人がこども扱いするから、こどもはいつまでもこどもなのだ。やらせてみると結構こどもにできることは多い。大人ができないと思ってやらせないから、いつまでもできない。失敗してもやらせることで経験を積み、できないことが減り、できることが増えていく。

準備や片付けもこどもにできる。準備・制作・片付けは1セットだ。「ちゃんとしなさい」とか「正しくやってね」などは大人がこどもによく使う言葉だが、「ちゃんとする」とはどういうことをいうのか?「正しく」とはどうすることなのか?こどもには分かっていないことが多い。大人の思いがこどもにきちんと伝わっていない状態だ。なのに大人は畳み掛ける様にこどもにこう言う。「どうしてきちんとできないの?」どうしてなのか分かっていたら問題は何もない。大人は言葉を選んで、こどもに分かる様に伝え、抽象的なことは具体的に説明する。言葉でだめなら実際にやってみせる。こどもだけで無理なら一緒にやってあげてもよい。そうすることで、こどもは、できた喜びを感じ自

信をつける。その自信は次の挑戦へのステップとなる。

■活動内容と記録■

巨大な新聞紙をつくろう

<内容>新聞紙をのりで貼り合わせていき巨大な新聞紙を作る。

その上からローラーを使って絵の具デザイン

用意するもの

(教師)新聞紙、ローラー、絵の具、ぞうきん、ブルーシート

(こども)のり、スモック

水であそぼう

<内容>模造紙にクレパスで好きな線を描き、その上に絵の具を出し氷を筆代わりにして絵の具あそびをする。

次週、この紙を自分の体型にカットする。

用意するもの

(教師)模造紙、絵の具、氷、洗面器、ぞうきん、ブルーシート

(こども)汚れてもいい服、クレパス、スモック



新聞紙おりがみ

新聞紙に描こう

<内容>・新聞紙を正方形に切り、思い思いのものを折る。

・長くつないだ新聞紙に思い思いの絵を自由に描く。

用意するもの

(教師)新聞紙、水入れ、筆、絵の具、ブルーシート

(こども)クレパス、のり、スモック

メモ/折り目に水をつけて新聞紙を切る。



ペタペタアート

<内容>・新聞紙であそぶ。(かぶる・のぞく・布団にする・音をたてる・槍をつくる etc)

- ・新聞紙を小さくちぎり、紙ふぶきあそび。
- ・新聞紙を水に濡らして園庭の遊具に貼り付ける。

用意するもの

(教師)新聞紙、セロテープ、金魚すくい用桶、洗面器、霧吹き
(こども)スモック

海をつくろう

<内容>模造紙ロールにみんなで青・赤の絵の具あそびをする。

用意するもの

(教師)模造紙ロール、絵の具、ぞうきん、水入れ、霧吹き、ブルーシート
(こども)汚れてもいい服、スモック

豆腐をつくろう

<内容>石膏の粉を容器でかためる。次週、表面に絵の具を塗り、ニードルで削って絵を描く。



用意するもの

(教師)小さな容器、わりばし、石膏、乾燥棚、絵の具、筆、水入れ、ニードル
(こども)スモック

うみに魚をおよがそう

<内容>紙に海の生き物を描き、前につくった海に貼っていく。

用意するもの

(教師)印刷済みでいらなくなったコピー紙、
(こども)色鉛筆、はさみ、のり、スモック

トレーでエコはんがをしよう

<内容>スチロールトレーに割り箸ペンでひっかき絵を描き、インクをつけて印刷する。

用意するもの

(教師)コピー用紙、インク、トレー、ローラー、割り箸ペン、バレン、ぞうきん、ブルーシート
(こども)スチロールトレー2~3個、はさみ、スモック

紙袋の大変身

<内容>紙袋をひろげ、描いたり切ったり貼った

りして何かをつくる。

用意するもの

(教師)紙袋予備、セロハンテープ、ホッチキス、ブルーシート
(こども)紙袋、はさみ、クレパス、のり、スモック



あまり紙でつくっちゃえ

<内容>あまりの紙からインスピレーションを受け、何かをつくる。

用意するもの

(教師)ダンボール、色画用紙などのあまり紙、セロテープ、スズランテープ、ホッチキス、ブルーシート
(こども)はさみ、色鉛筆、のり、スモック

スズランテープでつくっちゃえ

<内容>あまりのスズランテープを使って何かをつくる。

用意するもの

(教師)スズランテープ、セロテープ、ゴミ袋(45L)
(こども)はさみ、スモック



カチカチ粘土の大冒険

<内容>乾燥した土粘土を細かくくだき、水とこねる。

用意するもの

(教師)完全に乾燥した土粘土、皿、ビニール袋小、粘土板、霧吹き、
(こども)タオル、スモック

粘土コネコネぶつけちゃえ!



<内容>再生した粘土を壁にぶついたり、何かをつかって遊ぶ。

用意するもの

(教師)ブルーシート、粘土板、ヘラ、霧吹き、バケツ、ぞうきん、タワシ、弓、タコ糸、粘土、投げつけよう板

(こども)タオル、スモック



(※1) 四條畷学園大学附属幼稚園 (※2) 三省堂
金田一京助 新明解 国語辞典 第4版」より
抜粋

－ 2010. 3. 23 受稿、2010. 3. 24 受理－